

学校名	川越市立霞ヶ関西中学校
所在地	川越市笠幡3464-3
電話	049-231-0188

1 本校の現状

本校では、朝の会開始までの5分間を朝読書の時間と設定し、個人で自分の好きな本を持ち寄って朝読書を行っている。生徒の読んでいる本のジャンルとしては、ライトノベルが多く、また、ドラマや映画の原作や、漫画やアニメのノベライズも多く読まれている。

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・コロナ禍における学校図書館の運営
- ・読書に親しむ態度や読書習慣に関わる取組
- ・学校図書館の「学習・情報センター」機能の充実

(2) 実践の概要

ア 学校図書館での新型コロナウイルス感染防止の取組

密を防ぐために、開館は学校司書が来校している日の昼休みのみ行い、当初はカウンター業務は学校司書が行うこととした。(委員会が未組織のため、委員会活動が始まり次第、人数を限定し徐々に生徒も活動するようにしていった。)カウンター前の床に1m間隔にテープを貼り、密をつくらないように配慮した。また、当初は図書館内での本の閲覧は制限したが、後に、いすの配置を互い違いにし、生徒が対面しないように閲覧机の利用を再開した。

イ 図書委員会による読書推進の取組

新型コロナウイルス感染防止が求められる中で、集会など制限がある中での取組で、図書館新聞による本の紹介やコロナ対応による図書館利用の約束などの広報活動を行うことが主体となった。3年生を中心に、編集会議を行い、新聞作成期間と記事の内容を決め、分担をして作成し図書館新聞作成の工夫を行った。記事の内容は図書委員のおすすめ図書や新刊本の紹介が中心である。現在第5号まで発行できている。

コロナ禍が収束すれば、生徒集会による本の紹介など委員たちはやりたかったようである。

図書館新聞において、おすすめ図書として紹介し

た本は、図書室内にコーナーを設け、図書新聞で作成した原稿をラミネート加工し、本のポップにするなど、利用の促進を図っている。

ウ 国語科における読書教育の取組

臨時休校の影響もあり、指導計画の大幅な見直しが必要であり、読書指導を長期休業前の適切な時期に行えなかったのが実情である。教科書の読む教材において、適宜、作者の他の作品の紹介や関連図書の紹介を行うようにした。

エ 各教科領域との連携

各学校行事や総合的な学習の時間、学級活動で図書室が情報レファレンス機能を果たした。また、学校司書と相談し、学習に役立つ図書の購入を優先して行った。さらに、図書の配列を整理し、資料の検索をしやすくした。

また、総合的な学習の時間の取組としては、修学旅行前の調査や事前学習やキャリア教育の「職業」についての学習において、学校図書館を利用して調べ学習を行った。

しかし、中止縮小となる取組が多く利用は例年に比べ少ない。

また、環境学習を行うにあたり市中央図書館の団体貸出しを今年度中に利用する予定である。

3 成果と今後の課題

(1) 成果

今年度は新型コロナウイルスの対応で、学校の活動の大幅な変更や制限があった年度であった。学校図書館においてもコロナ禍における対応を強いられた。

しかし、試行錯誤であったが対応策はそのときの状況に応じて取れたと考えている。

(2) 課題

学校図書館での集会活動ができない中、普通教室やその他の会場でのブックトークや本の紹介の活動について工夫を考えていきたい。

(3) おわりに

まだ、今後不透明な状況だがコロナ禍における学校図書館のより積極的な活用を考えていきたい。